

# 戦争遺跡に関する考察

- 鹿児島県における戦争遺跡の意義とその活用方法について -

抜水 茂樹

A study of battle ruins

Nukimizu Shigeki

## 要旨

従来、歴史的価値と評価が定着していなかった戦争遺跡がここ数年全国的に注目を浴びている。鹿児島県はおそらく全国で一番戦争遺跡が多い県である。戦争遺跡が現代の我々に語りかけているのは直接的には二度と戦争をしてはいけないということである。また、埋もれた地域の歴史、当時の人々の在り方や生き方などを知り、これを学校教育や社会教育、ひいては町おこし等に利用できる埋蔵文化財としての側面も持っていると言えよう。他県の例をあげながら戦争遺跡をどのように考えたらいいのかをまとめてみた。

キーワード 本土防衛の最前線 空襲 保存と活用 世界遺産 史跡指定 平和の大切さ

## 1 はじめに

平成17年4月、鹿児島市内で地域住民もその存在を知らなかった、戦時中に使用されていたと思われる防空壕で遊んでいた中学生4人が、一酸化炭素中毒で全員死亡するという非常に痛ましい事件が起こった。子どもの頃に洞窟で遊んだ体験している人は多いと思うが、一歩間違うとこんなに危ないことになるということを、あらためて知ると共に、児童・生徒への危険予知の教育の必要性を中学校教員に籍を持つ筆者は痛感した。またはからずしもこのことが、先の戦争中に掘られた防空壕や地下壕の数の多さと、その危険性にマスコミ等の目が向けられ、行政がその実態把握を行う結果になった。

鹿児島県は第二次世界大戦末期、本土防衛の最前線に位置していたため軍事施設等が集中し、米軍の爆撃を頻

繁に受けている。そのため防空壕が各地でつくられた。土質が軟らかく、穴を掘りやすいシラス土壌の存在も一因である。この中には軍がつくったものから個人や集落でつくられた手掘りのものまで種々様々あるため、現在では県下全体でいくつあるのか把握できない状態にある。戦時中の防空壕など「特殊地下壕」は、2001年度に国土交通省などが実施した全国調査で確認された5,003か所のうち鹿児島県に1,991か所と約4割が集中していた<sup>1)</sup>。そのうち上部の建物に被害が出たり、中に入ることができ人身事故が発生するおそれのあるのが全国で777か所（場所は非公開）。そのうち3割以上の241か所が鹿児島県にある。次いで長崎県95か所、静岡県61か所、神奈川県60か所、千葉県54か所となっている。

このように放置されて危険なため、埋め戻しが必要な戦争遺跡、あるいは文化財として保存・活用し、後世に伝えていくことが可能な戦争遺跡が県内には多数あることがわかる。戦後60年目をむかえた今年、鹿児島県内にある戦争遺跡（数が多いため今回は第二次世界大戦に係わる遺跡としたい。）を歴史的な文化財として捉え、その現状を調べて保存・活用の可能性を、全国の例も参考に考えていきたい。

## 2 戦争遺跡を後世に伝えていく意義

日本は過去いくつかの歴史的節目や転換期を経験し、政治体制や社会構造が変化・発展して現代に至っている。筆者はそのなかで一番大きな歴史的節目は第二次世界大戦ではないかと思っている。日本人の戦没者が約310万人という事実が空前絶後であり、終戦を境に政治体制や

表1 【九州・山口各県の地下壕と危険個所】

県名	01年度調査		94,95年度調査	
	地下壕の数	うち危険個所	地下壕の数	うち危険個所
山口	31	12	39	8
福岡	16	3	22	4
佐賀	72	23	60	25
長崎	533	95	415	68
熊本	122	6	140	12
大分	107	16	105	15
宮崎	31	2	29	0
鹿児島	1991	241	163	57
沖縄	238	42	175	27
全国	5003	777	2805	518

(国土交通省などの調べによる)

社会構造が180度変わっている。また、外国の軍隊に国土全体を支配され、一時的にせよ主権さえなかったのは永い日本の歴史上終戦後の一時期だけである<sup>2)</sup>。世界史的視点に立って見ても、一度の敗戦でここまで国が変わった例はあまりないのではないだろうか。これらのことを後の世に伝え、二度と戦争を起こさないためには、戦争遺跡を保存・整備することも不可欠であると思う。

加えて戦争に関する遺構と遺物からは、当時の物質文明や生産・流通形態、人間の行動様式、人間の在り方や生き方がある程度うかがうことができる。このことは地域の埋もれた歴史の解明の端緒にもなりうるものである。

ところで第二次世界大戦の被害の多さや敗戦で、戦争遺跡はともすれば、思い出すのも嫌な「負の遺産」と思われがちであるが、当時の人々<sup>3)</sup>の力が結集してできた遺産と捉えることもできる。また、近代建築物としても貴重な文化財となっているものもある。

第二次世界大戦の経過と鹿児島県の位置を見たら明らかであるが、本県は南方への進出拠点あるいは南方からの攻撃に対する防衛拠点となっていたので、戦争遺跡が他の地域に比べて極めて多い。また、空襲の被害にあった地域はほぼ全県下にわたっている。県民がこのことを忘れないためにも戦争遺跡はすべてとは言わないまでも、後世に伝える必要があるのではないだろうか。

#### 【空襲を受けた鹿児島県内の自治体】

(一部に合併前の自治体の表記あり)

出水市・阿久根市・東郷町・川内市・串木野市・市来町・東市来町・加世田市・笠沙町・坊津町・枕崎市・知覧町・喜入町・穎娃町・指宿市・山川町・鹿児島市・始良町・加治木町・国分市・垂水市・鹿屋市・高山町・西之表市・上屋久町・屋久町・十島村・喜界町・笠利町・龍郷町・名瀬市・大和村・宇検村・住用村・瀬戸内町・徳之島町・天城町・伊仙町・和泊町・知名町・与論町

(『戦争遺跡から学ぶ』より)

### 3 鹿児島県の被害と戦争遺跡について

南九州は戦争末期、本土防衛の最前線拠点であったため<sup>4)</sup>、陸海軍の基地やそれに付随する施設が多くつくられた。特に吹上浜と志布志湾周辺は本土決戦陣地としてコンクリートを使用した永久築城の要塞や、素掘りの洞窟式陣地、複郭陣地、水上特攻の基地等が数多く構築された。(写真3)しかし、同時にそれは敵の戦略爆撃・戦術爆撃の目標にもなりやすいことでもあった。そのため鹿児島県の空襲による犠牲者数は、大都市、原爆を落とされた広島・長崎に次いで多い。特に、日中戦争時には上海爆撃の基地となり、1945年2月には本土決戦及び沖縄作戦全体の指揮を執る第5航空艦隊が展開し、かつ、日本最大の特攻基地であった鹿屋基地は常に海軍航空戦力の中心の一つであり続けた。そのため基地周辺は県内

表2 【空襲による犠牲者 都道府県別一覧】

北海道	1,210	山梨	1,181	広島	262,425
青森	946	長野	53	島根	38
秋田	94	富山	2,300	山口	3,362
岩手	616	石川	27	香川	1,359
宮城	1,118	岐阜	1,191	徳島	1,710
山形	41	愛知	12,379	高知	487
新潟	1,467	三重	5,612	愛媛	1,097
福島	661	滋賀	35	福岡	5,570
茨城	2,452	福井	1,809	佐賀	138
栃木	612	京都	215	長崎	75,380
群馬	967	奈良	32	大分	710
埼玉	392	和歌山	1,781	熊本	869
東京	116,959	大阪	14,770	宮崎	646
千葉	1,450	兵庫	11,997	鹿児島	4,604
神奈川	9,197	鳥取	61	沖縄	約1,500
静岡	6,234	岡山	1,773		

(『戦争遺跡から学ぶ』より)

のどこよりも激しく空襲を受けており、現在でも地下壕が原因で道路陥没等が起ったり、埋蔵文化財の発掘調査で弾丸等の遺物、掩体壕<sup>5)</sup>等の遺構が発見されている<sup>6)</sup>。また、奄美大島南部の瀬戸内町にある大島海峡は複雑に入り組んだ地形を呈するために第二次世界大戦時に陸海軍の絶好の要塞地となっており、町内には海軍の施設を中心に多くの戦争遺跡が認められる(写真6,7)。

戦後の大型開発や高速道路建設事業等に伴う発掘調査でこれら戦争遺跡が県内各地で確認され、近年はこの資料が蓄積され、研究者も増えて、「戦跡考古学」と呼ばれる分野も生まれている。第二次世界大戦に関しては、鹿児島県では1990年に報告された「西原掩体壕跡」をもって嚆矢とする。その後報告例が増えていき、今日では戦跡も埋蔵文化財の一分野に捉えられている。

鹿児島県の戦争遺跡からは戦局の切迫した終末期軍隊の様相を窺い知ることができる。

#### 4 戦争遺跡をどのように分類するか

鹿児島県にある第二次世界大戦時の戦争遺跡は多種多様であるが、概ね4つの項目とそれを細分化した18種類に分類することができる。遺跡によってはこの分類のいくつかにあてはまるものがある。

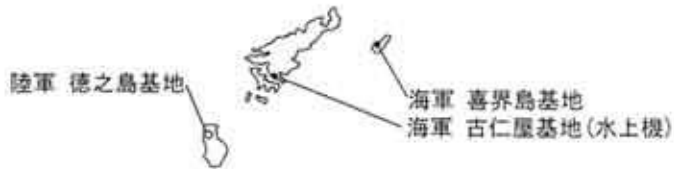
##### A 設置(者)部署による分類

- 1 海軍施設
- 2 陸軍施設
- 3 民間施設
- 4 行政施設
- 5 生産関連施設
- 6 自治体や村落共同体の施設など

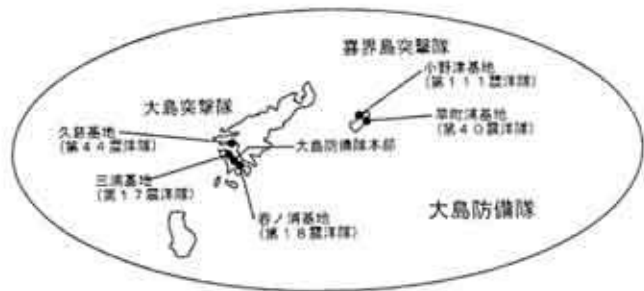
1については、鹿屋基地を筆頭に、県内にある航空基地の大半は海軍施設である。2については、知覧基地等がある(資料1)。3~6で数が一番多いのは、防空壕など特殊地下壕であろう。

##### B 場所による分類

- 1 地上にあるもの
- 2 地下にあるもの
- 3 両方にわたっているもの



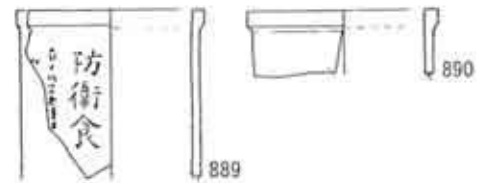
資料1 県内の航空基地



資料2 本土決戦用の水上特攻基地



資料3 日本本土への上陸計画



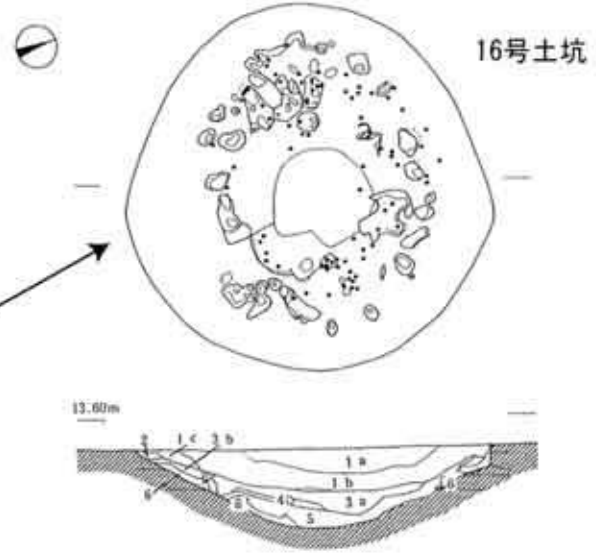
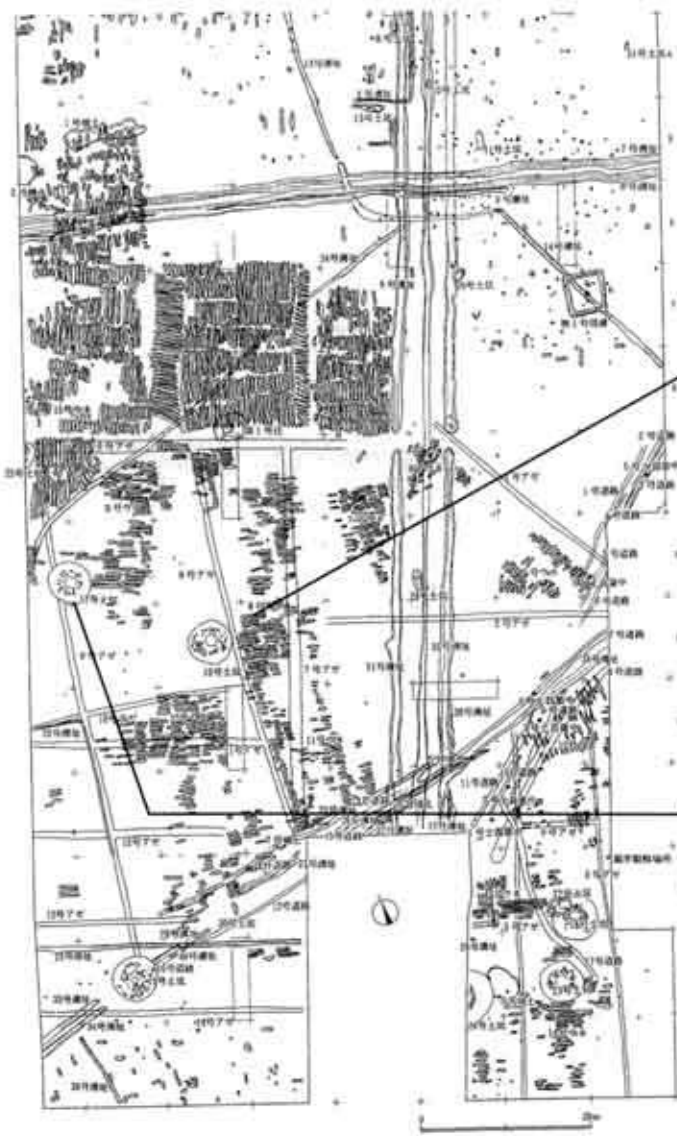
資料4 垂水・宮之城島津屋敷跡防衛食器



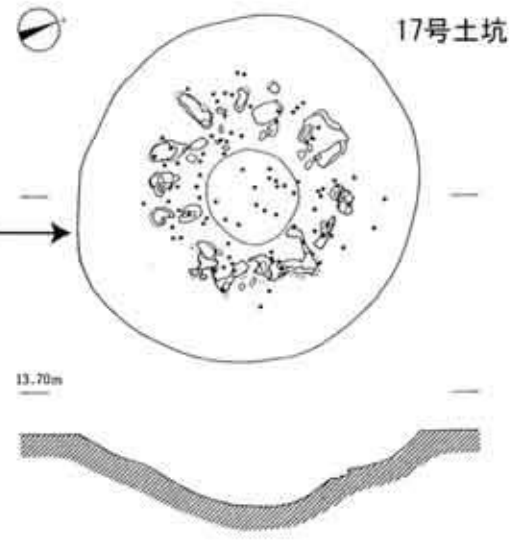
2631



資料5 大坪遺跡弾丸

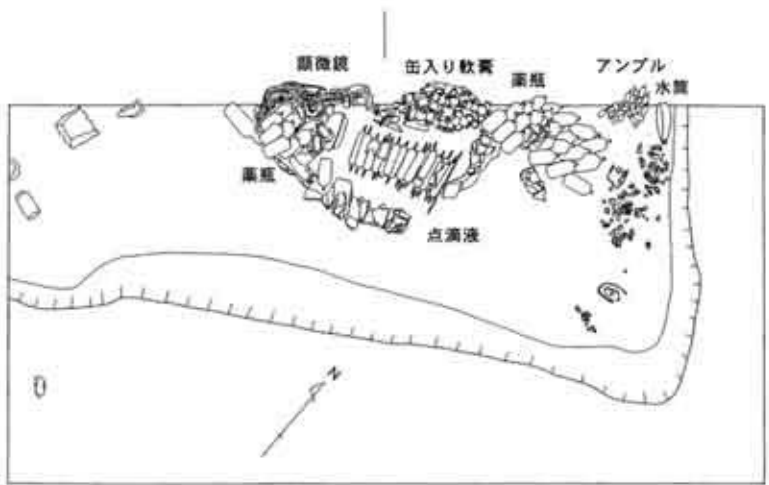
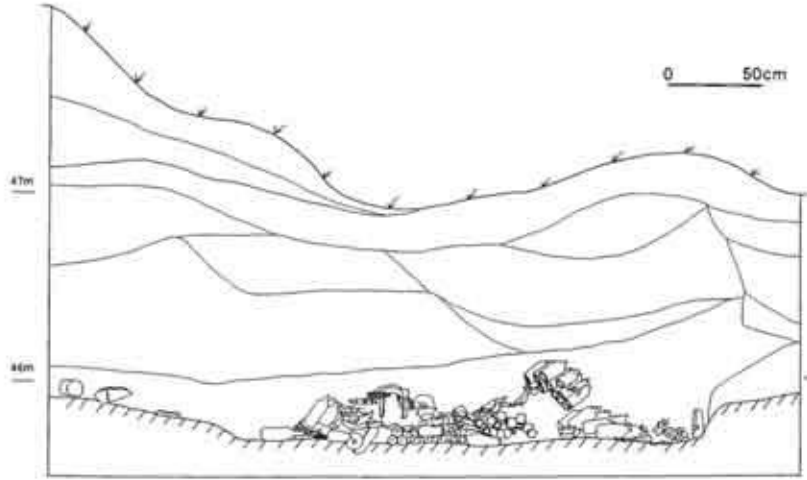


16号土坑

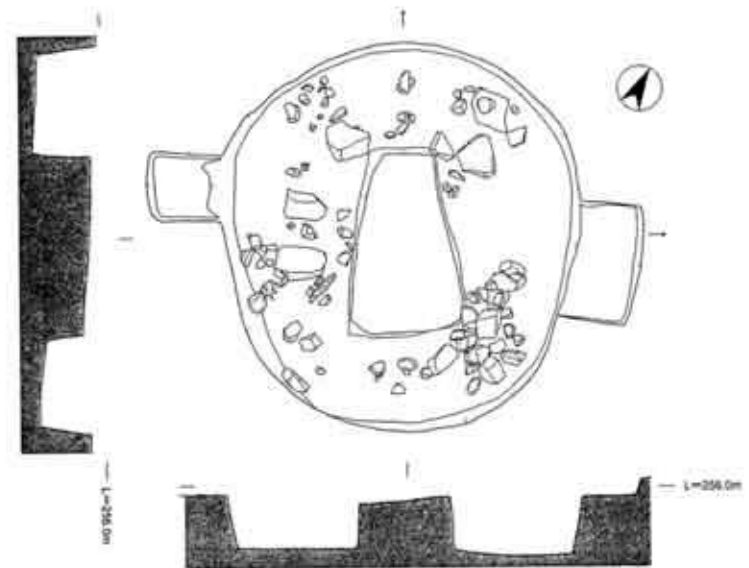


17号土坑

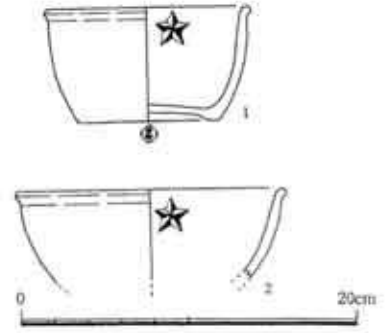
資料6 菩提遺跡 爆弾破損痕(分類D-3)



資料7 南風原陸軍病院壕



資料8 三角山遺跡 環状土坑



資料9 旧練兵場遺跡 軍用食器

#### 4 海岸線など水際にあるもの（写真6）

3は特殊地下壕や地下室とその出入り口があり、4については海軍の水上特攻艇である震洋の基地（資料2）や、水上機基地（指宿と古仁屋等）などがある。

#### C 現在の状況による分類

- 1 現在も使用されているもの
- 2 現在は使われていないもの（写真4）
- 3 現在は別の用途で使用されているもの（写真5）
- 4 - a 戦後の開発や削平等で過去に消滅したもの
- 4 - b 戦後の開発や削平等で一部しか残っていないもの

1については鹿屋基地が唯一の例である。3については鹿児島基地の滑走路が県庁前の道路として使われている例と、陸軍歩兵第45連隊の駐屯地が県立短期大学のキャンパスになっている例がある。また、掩体壕が地元の農家の農作業具置き場になっている例も若干あるようである。

#### D 周知による分類

- 1 戦争遺跡として周知されているもの
- 2 戦争遺跡として周知されていないもの
- 3 他時代の埋蔵文化財の発掘調査中に発見された遺構や遺物または戦争の痕跡を示すもの

2については、地域住民もその存在を知らなかった戦時中に使用されていたと思われる防空壕の例があり、冒頭の死亡事故のように一酸化炭素中毒や崩落等が予想され危険なものや、開発との兼ね合いで残すことのできない遺跡もある。3については菩提遺跡や森・白金原遺跡のように遺構や遺物が報告される例があるが、今後増えてくるものと思われる（資料6と11）。

A~Dの分類とは別に、第二次世界大戦と関わりの深いものとして奉安殿<sup>7)</sup>が奄美諸島に8か所現存する。戦後、進駐軍による破壊を免れたものであろうが、全国的に見ても非常に貴重なものであるといえよう（写真8）。

#### 5 戦争遺跡をめぐる諸問題

戦争遺跡や戦争資料は、

- ① 近現代史研究・戦争遺跡考古学研究の資料
- ② 歴史教育・生涯学習の教材
- ③ 平和学習の物証・語り部
- ④ 町おこし等や観光資源

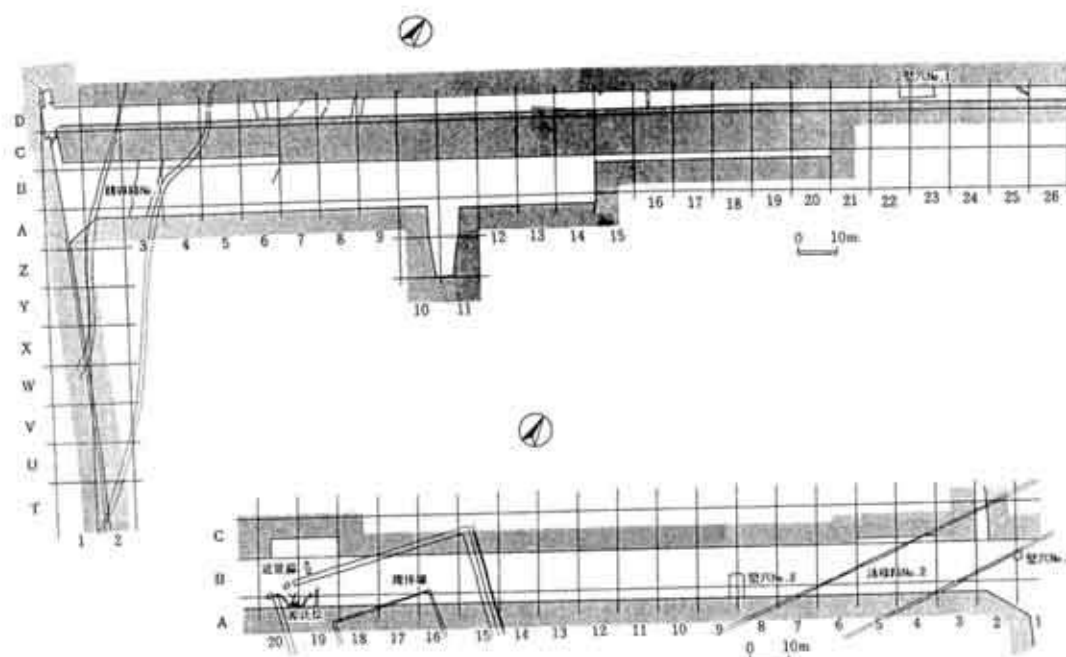
としての価値を有しているといえる。

しかし、戦争関連施設の多くは戦災で焼失したり、終戦時に日本軍や進駐軍によって破壊されたりしている。また、破壊や焼失をまぬがれたものでも半世紀を過ぎて風化や老朽化して、その存在を忘れられたもの、都市開発や宅地造成等で危険だからという理由で壊され、痕跡すら残っていないものも多い。そのような場所に看板や記念碑だけを設置しても、はたしてどれほどの人が当時を回想することができるであろうか。

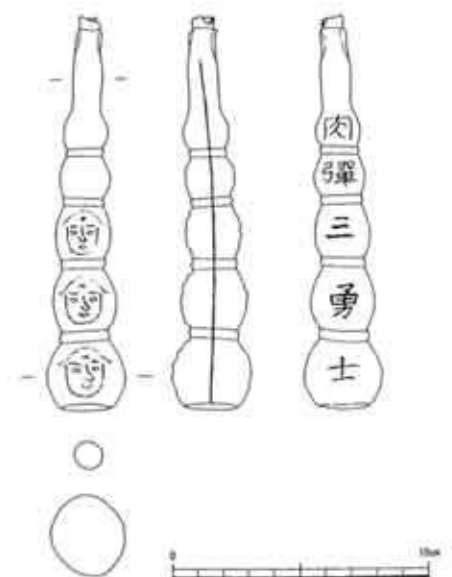
加えて「語り部世代」の消滅である。第二次世界大戦を経験し、当時の体験や状況がある程度正確に語れる人は、時代と共に確実に減っていく。近・現代遺跡の最大の特徴は当時を生き残った人々の生の言葉で検証が出来るということである。先に挙げた「西原掩体壕跡」では古老の記録と米軍撮影の写真等によって掩体壕の位置と形状が確認されている。語り部世代の消滅については、筆者はかつて勤務していた中学校の夏休みの宿題で、祖父母に戦争体験を聞き、文章としてまとめさせて、これをもとに文集をつくり、歴史の授業で活用したことがある。そこには最前線の兵士や空襲に逃げまどう銃後の国民の様子や心情がリアルに克明に描かれてあった。しかしこのような実践も現在ではもうできなくなったのではないかと考えている。

#### 6 戦争遺跡が文化財として取り上げられるまで

従来、文化財保護法による保護対象は、概ね明治維新までが対象で、戦争遺跡を文化財の対象外としていた。



資料10 西原掩体壕



資料11 森・白金原遺跡  
ニッキ水瓶

「第二次世界大戦の戦跡は、時代をとおらず、歴史としての評価が定着していない。」という理由からである。

しかし、1995年、広島原爆ドームの世界遺産登録の動きに連動して、史跡指定基準が変更され、第二次世界大戦終結のころまでの戦争遺跡（「戦跡その他政治に関する遺跡」）も文化財に指定することができるようになった。ユネスコの世界遺産へ登録するには、まず国内法による史跡指定が前提となっているからである。国の指定基準の改定を受け、同年5月文化財保護審議会は原爆ドームの史跡指定を答申、翌6月、史跡指定が確定し、9月には世界遺産リストへの政府推薦書がユネスコに送付された。そして96年12月、世界遺産登録基準の文化遺産vi項<sup>8)</sup>を満たす遺跡として世界遺産に登録された。同様の戦争関連遺跡としてはポーランドのアウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所跡がある。

その後文化庁は「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について」<sup>9)</sup>という通知の中で埋蔵文化財として扱う範囲の原則を、

- ① おおむね中世に属する遺跡は、原則として対象とすること。
- ② 近世に属する遺跡については、地域において必要なものを対象とすることができること。
- ③ 近・現代の遺跡については、地域において特に重要なものを対象とすることができること。

としている。

戦争遺跡の価値を認めた文化庁は2002年、将来の国指定史跡にむけて詳細調査対象の戦争遺跡50件を選定した（資料12）。

これと相前後して各地で戦争遺跡を文化財として捉え、活用しようという動きが見られるようになる<sup>10)</sup>。ここでは一例として、千葉県館山市の取り組みを紹介したい。館山市の場合は戦争遺跡を保存し、これを平和学習の教材・観光拠点・町おこしの三方面で活用をしているのが特徴といえよう。館山市は東京湾の入り口にあり、20世紀になってから東京湾に侵攻する敵艦隊を阻止して、首都東京と横須賀軍港を守る目的で、砲台などの要塞・館山海軍航空隊・洲崎海軍航空隊・館山海軍砲術学校等の軍事施設が数多くつくられ要塞地帯となっていた。これらを市民有志がまちづくりに活かそうと活動を行い、市議会も戦争遺跡の文化財指定や保存活用について話し合うようになった。そして戦争遺跡を平和学習教材として保存活用する『館山歴史公園都市』構想を発表するに至った。さらに2002年、まちづくり事業にかかわる補助金を受け、戦争遺跡調査委員会が発足した。この委員会は最終報告で、戦争遺跡（旧館山海軍航空隊近くにある地下要塞の赤山地下壕跡が中心）を活かした平和・学習拠点の館山市を実現するために「地域まるごとオープンエアーミュージアム（フィールド博物館）館山歴史公園

都市」構想を提案して活用をすすめている。またNPO法人も戦跡の調査・研究、案内活動にあたっている。

1989年 館山市立博物館企画展で「洲崎海軍航空隊」などの戦争遺跡を紹介

1995年 戦後50年平和を考える集い実行委員会の活動  
戦跡フィールドワーク／館山市グラフ誌が特集  
「館山にとっての戦後50年」／市民より戦争遺跡の史跡指定を提案

1997年 館山市文化財審議会市内戦争遺跡の所在確認調査実施（～1998年）

1999年 館山市文化財審議会中間報告「史跡指定については、時期尚早。ただし戦争遺跡を地域の歴史遺産として評価できるよう、継続調査が必要」と具申

2002年 館山市・（財）地方自治研究機構による共同調査研究事業

- ① 戦争遺跡の歴史資源としての考え方
- ② 戦争遺跡の保存活用の考え方（市民の生涯学習資源として）
- ③ 平和学習拠点化すべき戦争遺跡の選別（市内に47か所の戦跡あり）
- ④ 平和学習拠点の形成に必要な資料等の収集等について話し合う

2004年 館山市が「赤山地下壕」の保存・安全対策を実施し一般公開した／NPO法人「南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム」が県より認証／館山歴史公園都市（地域まるごとオープンエアーミュージアム）構想提案／館山市文化財審議会は「赤山地下壕跡」が史跡レベルにあると答申

2005年 館山市は「赤山地下壕跡」を文化財に指定

ここに至るまでには、館山市議会ですべて論議されており、議会の総務委員会が所管調査として、赤山地下壕に議員全員が調査に入っている。そして全員が戦争遺跡として大切に保存すべきものという共通認識を持つに至った。また、館山市企画課や館山市教育委員会も「資料も少なく、今やらなかったら時機を逸する。若い世代にも伝えていかなければならない」という認識を共有している。

## 7 おわりに - 負けた戦争の大切さ -

近・現代の歴史は戦争と軍隊の存在抜きには語れない。戦争遺跡を保存し後世に伝えることの最大の目的は、「過去にこのようなことがあった。二度と繰り返してはならない」ことに尽きると思う。人類は勝った戦争よりも、負けた戦争から多くの戦訓や教訓を学んできている。

最近、全国各地で「身近にある戦争遺跡から戦争のことを知り平和の大切さを学ぼう」という活動を行う団体や市民運動が現れている。本県でも個人的に踏査や集成

を行い、紹介や普及活動を行っている人もいる。また、今後県内で埋蔵文化財の発掘調査が行われるに伴い、新たな戦争遺跡が確認され、この時代に対する認識と評価が深まっていくであろう。近・現代の歴史は、日本が世界の中で今後どのようにあるべきかという問いに直接答えられる要素を他のどの時代よりも多く含んでいる。このため、地域の安全管理と戦争遺跡の保存の調和が求められる。

表3 特別攻撃隊の基地別出撃数等  
海軍 2,526名

出撃基地	出撃隊員 (未帰還機含)	機数 (未帰還機含)	備考
鹿屋	832	445	
串良	334	122	
国分	354	224	
出水	41	14	
指宿	82	41	古仁屋含む
鹿児島	12	1	
喜界島	19	11	
合計	1,674	858	

陸軍 1,039名

出撃基地	出撃隊員 (未帰還機含)	機数 (未帰還機含)	備考
知覧	439	354	

(昭和20.3.11以降史料館調べ)

(『知っていますか？身近な「戦争遺跡」』より)

### 【 註 】

- 1 県都市計画課によると、国土交通省の調査は市町村を通して実施。戦時中の記録がほとんどないため、住民への聞き取りが中心だった。海軍航空基地があった鹿屋が518か所で県内最多、次いで鹿児島市の255か所だった。
- 2 1945年9月、連合軍は「初期対日方針」で日本が二度と世界の脅威にならないように非軍事化と民主化とを推進すること、その際最高権力はGHQ最高司令官が握ることを明確にした
- 3 ここでは日本が支配していた地域の人々も含めることを付言したい。
- 4 当時の連合軍は昭和20年11月1日発動予定の南九州上陸作戦<オリンピック作戦>と、昭和21年3月1日発動予定の関東上陸作戦<コロネット作戦>を控えていた。(資料3)
- 5 掩体壕とは敵の空襲から軍用機を保護するための施設で、コンクリート製の有蓋掩体壕、土塁で作る無蓋掩体壕、草木で隠すだけの臨時型の3種類がある。(写真1)
- 6 昭和20年、鹿屋基地周辺は268回、延べ2,092機による空襲を受け、3月以降の空襲日は52日に及んだという。
- 7 御真影・教育勅語謄本などを奉安するために全国の学校の敷地内に作られた施設。1920年代後半から30年代にかけて普及した。別名奉安所。
- 8 顕著な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信仰、または、芸術的、文学的作品と、直接に、または、明白に関連するもの。
- 9 文化庁次長通知「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等

について」(平成10年9月29日)より。

- 10 1990年、沖縄県南風原町の陸軍病院壕が町文化財の指定を受けた。当時、文化財保護法においては戦跡を文化財として取り扱う規定がなかったが、町文化財保護指定基準において指定対象に戦跡を含むという一項を全国に先駆けて入れて指定をおこなった。1997年にオープンした文化センターの常設展示室では病院壕が復元されている。(資料7)
- 11 陸軍将校が集会・宿泊・接待等に使用する施設。海軍は水交社。
- 12 工廠とは各種兵器の製造・修理、製鋼、兵器の保管・調達・繕装などを行った工場等の総称。
- 13 鎮守府とは日本周辺を4海軍区に分け、それぞれの海軍区を統括する機関。横須賀、呉、佐世保、舞鶴にあった。

### 【引用・参考文献】

- 南風原町教育委員会 2000「南風原陸軍病院壕群1 - 沖縄県南風原町所在南風原陸軍病院壕群の考古学的調査報告書 -」『南風原町文化財調査報告書 第3集』
- 普通寺市・(財)元興寺文化財研究所 2001「旧練兵場遺跡」『市営西仙遊町住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 隼人町教育委員会 1998「菩提遺跡」『隼人SC建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 鹿児島県教育委員会 2004『鹿児島県の近代化遺産 - 鹿児島県近代化遺産総合調査報告書 -』
- 鹿児島県教育委員会 1990「西原掩体壕跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』(52)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003「垂水・宮之城島津屋敷跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(48)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003「森・白金原遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(55)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004「三角山遺跡群(2)」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(63)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005「大坪遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(79)
- 浅川範之 2005「『兵営』の考古学 - 考古資料にみる軍隊生活 - メタ・アーケオロジー研究会編『近現代考古学へ今なぜ近現代を語るのかへ』六一書房
- 南日本新聞 2005年5月20日朝刊記事
- 前迫亮一 2003「発掘された鹿児島の戦争関連資料について - 幕末からアジア太平洋戦争終結頃まで -」『鹿児島考古』第37号
- 戦争遺跡保存全国ネットワーク編 2003『戦争遺跡から学ぶ』岩波ジュニア新書
- 八巻聡 2001『鹿児島県の戦争遺跡 航空基地編』
- 八巻聡 2005『鹿児島県の戦争遺跡 本土決戦編①』
- 古場昌彦 2004『知っていますか？身近な「戦争遺跡」』
- 十菱駿武 菊池実 2002『しらべる戦争遺跡の事典』柏書房

資料12 2002年文化庁が詳細調査の対象に選定した地域別戦争遺跡

陸軍第7師団関係遺跡（北海道旭川市）師団司令部、借行社11）一國指定重要文化財  
函館（戊申）戦争関係遺跡（上磯町ほか）矢不來台場跡、川波台場跡、峠下台場跡  
函館要塞（函館市）砲台、戦闘司令部、弾丸・弾薬庫、電灯所、観測所等  
陸軍第8師団（青森県弘前市）騎兵第8連隊追馬場、司令部前庭、野砲兵第8連隊追馬場・兵舎、師団長官舎、射の場、借行社一國指定重要文化財  
陸軍省馬補充部六原支部関係遺跡（岩手県胆沢郡金ヶ崎町）  
軍馬補充部白河支部跡関係遺跡（福島県西白河郡西郷村）  
海軍土浦飛行隊関係遺跡（茨城県稲敷郡阿見町）本部庁舎跡、士官官舎跡、医務科跡、衛兵所跡  
東京湾防衛砲台群（千葉県富津市、神奈川県横須賀市、三浦市）富津元洲砲台跡、第1・第2海堡、猿島砲台、花立砲台、三軒屋砲台、腰越砲台、観音崎砲台、観音崎北門第1・第2・第3砲台  
第1台場（東京都港区）  
2・26事件関係遺跡（同港区）旧歩兵第1連隊本部、旧歩兵第3連隊  
近衛騎兵連隊関係遺跡（同新宿区）赤煉瓦兵舎  
陸軍砲兵工廠関係遺跡12）（同文京区）弾丸製造機械等  
東京砲兵本廠関係遺跡（陸軍造兵廠東京第2造兵廠関係遺跡）（同板橋区、群馬県高崎市）板橋製造所、岩鼻製造所  
浅川地下工場跡（東京都八王子市）中島飛行機製作所浅川地下工場  
東京陸軍航空学校関係遺跡（同武蔵村山市）  
小笠原における戦争関係遺跡（同小笠原村）父島一要塞司令部官舎、宮之浜震洋隊基地、夜明山通信施設、師団司令部、海軍飛行場、高山監視哨、海軍ダム、母島一庚申塚探照灯、小富士砲台、西浦震洋隊基地、中岬砲台、大剣先山水平砲、評議平高射砲群  
日吉台地下壕（神奈川県横浜市北区）連合艦隊司令部、大本営海軍軍令部、海軍省人事部  
陸軍第9技術研究所（登戸研究所）（同川崎市多摩区）  
海軍横須賀鎮守府関係遺跡13）（同横須賀市）長官官舎、鎮守府庁舎、船渠、記念艦「三笠」等  
相模野海軍航空隊（同綾瀬市・大和市）司令部庁舎、地下壕、武道場等  
生地台場（富山県黒部市）  
松代大本営予定地地下壕（長野市）  
豊川海軍工廠（愛知県豊川市）爆薬置場、火薬庫、露天式防空壕、街路灯等  
八日市飛行場関係遺跡（滋賀県八日市市）掩体、誘導路  
海軍舞鶴鎮守府及び舞鶴要塞関係遺跡群（京都府舞鶴市）煉瓦倉庫群、補入砲台跡、葦谷砲台跡、建部山堡塁砲台跡、植山砲台跡、金崎砲台跡、吉坂堡塁砲台跡、博岬探照灯跡、下安久弾丸本庫跡、白杉弾丸本庫跡、海軍機関学校庁舎、大講堂、隊舎、校舎、煉瓦製造用ホフマン式輪窯一國登録有形文化財  
陸軍第4師団関係遺跡（大阪府中央区）  
大阪砲兵工廠（旧陸軍宇治火薬製造所跡を含む）（同中央区）  
大阪北部における地下壕群（大阪府高槻市・茨木市）高槻成合地下工場、大阪警備府軍需部安威倉庫跡、旧陸軍関係地下壕  
友ヶ島・深山砲台群（和歌山市）  
歩兵40連隊跡（鳥取市）連隊本部、第1・第3雨天練習場等  
陸軍第17師団関係遺跡（岡山市）司令部、砲兵第2大隊、輜重隊第17大隊本部、浴場  
陸軍広島湾要塞関係遺跡（広島県佐伯郡宮島町ほか）  
海軍呉鎮守府及び呉海軍工廠関係遺跡（同呉市）司令長官官舎一國指定重要文化財  
海軍兵学校関係遺跡（同安芸郡江田島町）  
陸軍芸予要塞大久野島砲台及び陸軍造兵廠火工廠忠海兵器製造所（同竹原市）  
陸軍下関要塞関係遺跡（山口県井下関市）司令部跡、霊鷲山砲台、兵舎壕、火の山砲台兵舎跡、蓋井島砲台  
角島軍関係遺跡（同豊浦郡豊北町）海軍望楼跡、陸軍監視所台座、弾薬庫、倉庫  
海軍大浦水上飛行基地（同大津郡油谷町）兵舎、格納斜路、格納壕  
大津島回天特別攻撃基地（同徳山市）  
陸軍第11師団関係遺跡（香川県善通寺市）司令部、兵器庫、輜重隊、借行社一國指定重要文化財  
前浜砲台跡（高知県南国市）  
陸軍大刀洗飛行場関係遺跡（福岡県大刀洗町ほか）掩体壕、射撃場跡、排水路、燃料庫、格納庫、航空廠倉庫跡、構内鉄道跡  
陸軍歩兵56連隊跡関係遺跡（同久留米市）師団長官舎  
四郎ヶ島台場（長崎市）  
海軍佐世保鎮守府防衛砲台群（長崎県佐世保市）  
対馬の砲台群（同対馬）  
西南戦争関係遺跡（熊本県、大分県、宮崎県）田原坂古戦場、耳川壑壕群、有栖川征討宮殿下御本宮跡、官軍墓地  
戦争関係遺跡（鹿児島県川辺郡知覧町）給水塔、着陸訓練施設、弾薬庫等  
海軍司令部壕（沖縄県島尻郡豊見城村）  
南風原陸軍病院壕（同島尻郡南風原町）

表4 鹿児島県内の戦争関連遺跡等

番号	市町村名	名称	種類	竣工年代		所在地	遺構・備考
1	鹿児島市	紙置洲砲台	砲台	嘉永6	1853	鹿児島市清水町	石造
2	"	新波止砲台	"	安政1	1854	鹿児島市本港新町	"
3	"	天保山砲台	"	嘉永3	1850	鹿児島市天保山町	"
4	加世田市	万世懸霊塔	懸霊碑	昭和18	1943	加世田市唐仁原423-1	石造, コンクリート造
5	"	西南の役薩軍招魂冢	"	明治12	1879	加世田市武田17933	石造
6	"	陸軍万世飛行場の営門と水槽	陸軍施設	昭和19	1944	加世田市高橋県立薩南病院の近く	"
7	知覧町	陸軍知覧飛行場着陸訓練施設遺構	陸軍施設	昭和17	1942	知覧町郡平和公園内	鉄筋コンクリート造
8	"	陸軍知覧飛行場弾薬庫跡	陸軍弾薬庫	昭和17	1942	知覧町郡打出口	"
9	"	陸軍知覧飛行場水風呂(防火水槽跡)	陸軍施設	昭和17	1942	"	"
10	"	陸軍知覧飛行場給水塔跡	陸軍水道施設	昭和17	1942	"	"
11	"	軍関係の倉庫	陸軍施設	昭和16	1941	知覧町郡	コンクリート造
12	薩摩川内市	天狗鼻海軍望楼台	哨戒施設	明治33~38	1900	川内市寄田町1094-2	"
13	出水市	海軍航空隊兵門	海軍施設	昭和18	1943	出水市平和町鹿島	"
14	"	海軍航空隊の掩体壕	"	昭和19	1944	"	"
15	"	海軍航空隊の防空壕	"	"	"	"	"
16	高尾野町	海軍航空隊の地下壕	"	"	"	高尾野町唐笠木945-1	"
17	"	海軍航空隊の防空壕	"	"	"	高尾野町下高尾野167-1	"
18	"	海軍航空隊の地下壕	"	"	"	高尾野町下水流3164下水流小学校敷地内	"
19	"	海軍航空隊跡第七高等学校造士館跡	"	"	"	高尾野町下水流3164-21	石造, コンクリート造
20	大口市	招魂社	軍事施設	明治12	1879	大口市里飯訪山1805	石造
21	菱刈町	招魂社	"	明治11	1878	菱刈町川北2459	"
22	"	爪/峯招魂社	"	明治12	1879	菱刈町荒田爪/峯	"
23	国分市	海軍発電所壕	海軍施設	昭和17	1942	国分市福島2-22-14	コンクリート造
24	"	水槽	"	"	"	国分市福島2-22-18	"
25	始良町	山田の凱旋門	記念施設	明治39	1906	始良町下名1178	石造
26	隼人町	特攻基地通信指令壕	詰所	昭和18	1943	隼人町西光寺中原	コンクリート造
27	"	海軍弾薬壕	弾薬庫	昭和19	1944	隼人町内2558-15	
28	大隅町	発電壕	海軍施設	昭和20	1945	大隅町月野1099-2	コンクリート造
29	末吉町	西南の役薩軍の墓	墓地	明治10	1877	末吉町岩崎岩南	石造, 土造
30	志布志町	権現島砲台遺構	砲台	昭和20	1945	志布志町帖6613-1	コンクリート造
31	鹿屋市	海軍笠野原航空基地跡地下道入り口	海軍施設	大正~昭和20		鹿屋市笠之原	"
32	"	海上自衛隊鹿屋航空基地1ビル	海軍 隊舎	昭和11	1936	鹿屋市西原3-1-86	鉄筋コンクリート造4階建
33	"	海上自衛隊鹿屋航空基地2ビル	"	"	"	"	鉄筋コンクリート造3階建
34	"	海上自衛隊鹿屋航空基地3ビル	"	"	"	"	鉄筋コンクリート造2階建
35	"	海上自衛隊鹿屋航空基地4ビル	"	"	"	"	"
36	"	海上自衛隊鹿屋航空基地第2格納庫	海軍施設	昭和14	1939	"	鉄筋平屋建
37	"	海上自衛隊鹿屋航空基地掩体壕	有蓋掩体壕	"	"	"	鉄筋コンクリート造
38	串良町	串良海軍航空基地地下壕電信司令室	詰所	昭和19	1944	串良町有里4963	コンクリート造
39	根占町	根占砲台	砲台	嘉永4	1851	根占町辺田原	石造
40	瀬戸内町	実久砲台	"	大正9	1920	瀬戸内町実久	コンクリート造
41	"	金子手崎防備衛所	詰所	昭和16頃	1941	瀬戸内町安御場	鉄筋コンクリート造
42	"	陸軍弾薬格納庫	弾薬庫	大正~昭和		"	コンクリート造
43	"	陸軍弾薬庫	"	昭和10	1935	瀬戸内町手安	"
44	"	西古見防衛監視所	詰所	大正9	1920	瀬戸内町西古見	"
45	"	西古見の弾薬庫	弾薬庫	大正12	1923	"	"
46	喜界町	掩体壕	掩体壕	昭和初		喜界町湾小字久大真1588	"
47	"	戦艦指揮所	詰所	"		喜界町中里198	"

『鹿児島県の近代化遺産』(2004年鹿児島県教育委員会)より作成



写真1 鹿屋基地内の有蓋掩体壕



写真2 笠野原基地弾薬庫の被弾痕



写真3 内之浦の本土決戦用砲台跡



写真4 国分基地の発電所跡(分類C-2)



写真5 鹿児島基地の滑走路跡(分類C-3)



写真6 瀬戸内町呑之浦の震洋格納庫(分類B-4)



写真7 瀬戸内町金久手崎の潜水艦防備所



写真8 瀬戸内町の池地小学校奉安殿